

# Mero Sathi Project 最終会

## 垣見一雅氏特別講演会 報告書



メロサティプロジェクト

**Mero Sathi Project**(ネパール語で「私の友達」の意)。東京経済大学の関昭典ゼミが都内の複数の大学と連携し、一般社団法人アジア教育研究機構（AAEE）との共催で取り組んできたネパール地震緊急支援プロジェクトです。このたび、地震が発生した昨年4月25日以来一年三か月にも及んだ活動に一区切りをつけることにしました。そこで、さる2016年6月2日(木)、ネパール支援家でAAEE理事の垣見一雅氏を講師にお招きし、活動を総括する最終回イベントを東京経済大学大倉喜八郎進一層館にて実施しました。平日の夕方の開催であったにも関わらず、東京経済大学の学生に加え、上智大学など他大学の学生や高校生、教育関係者、ネパール支援団体の方々が多数参加くださりMero Sathi Project や垣見一雅さんの注目度の高さを実感しました。

### 講演会当日の内容

会場となった大倉喜八郎進一層館は、2015年度の「グッドデザイン賞」を受賞した特別のイベントホール。来場された皆さんもその美しさに目を引かれていました。開園直前の17時59分、場内の照明が突然消え真っ暗に。お客さんは皆静まりかえりました。そして開演。暗闇の中で聞こえてきたのは静



かな和太鼓の音色。次第に場内が明るくなり、演者である関ゼミ生、北野宏晃（東京経済大学経済学部3年）の姿がくっきりと浮かび上がりました。この演出に驚いたお客さんは三分の演奏中拍手喝さいです。その後AAEE学生アシスタント、吉川夕葉（上智大学総合グローバル学部2年）による開会の挨拶に続き、関ゼミナールゼミ長の穴田麻由佳（東京経済大学現代法学部3年）とギターの特注アーティスト高橋侑汰（東京経済大学経済学部2年）によるフルートとギター演奏による名曲「ふるさと」の演奏、それに合わせての垣見一雅さんの入場です。実は垣見氏は二日前に帰国したばかり、ゼミ学生で連日話し合った結果、「懐かしい故郷へようこそ」という気持ちをこめて選んだ曲でした。垣見氏がとても嬉しそうに入場されている姿にこちらも感動一入。続いて、Mero Sathi Projectのメンバーを



代表し、昨年度関ゼミ生の石井侑登さん(東京経済大学経済学部4年)による活動総括。特に9月にネパールにて実施した学生交流&支援活動を振り返り「多文化交流においては、相手に通じる言語を覚えることと、相手の文化を尊重し理解

しようとする姿勢が大切」いう感想で締めくくりました。

そして、いよいよメインイベントの垣見一雅氏講演会。東京経済大学関准教授による紹介に続き、関准教授と垣見氏の対談の形式で講演が行われました。さて、ここで垣見氏の紹介をしましょう。

## 垣見一雅（OKバジ）氏の紹介



先ほども述べた OKバジ（OK おじいさん）こと、垣見一雅氏(76)はネパールの辺境の地に**学校を 200 校以上**建てるなど、ネパール支援家として圧倒的な実績をお持ちです。また、関先生が代表理事を努める一般社団法人アジア教育交流研究機構の理事でもあります。ネ

パールで一つの学校を建てることは決して楽ではなく、資金面では日本円で最低 50 万円、その他諸々を考慮すると約 200 万～350 万ほど必要とされています。200 校以上建てるとなると、巨額の資金が必要です。そのため、帰国するたびに募金活動を続け、集めた資金を支援に充てています。さらに、学校を建てるだけでなく、**医療支援や生活物資支援など**、現地の人々の暮らしが少しでも良くなるように活動しています。垣見氏は 1994 年にネパールに移り住み、以来一年のほとんどをネパールで過ごし単独で支援活動をしています。長年の功績が認められ、ネパール国内や日本で様々な賞を受賞し、テレビ、新聞などでも数多く取り上げられる著名人でもあります。当講演会の直前の 5 月 13 日にも「世界ナゼそこに？日本人」（テレビ東京 21：00～）で活動が紹介されました。

**番組はコチラでご覧いただけます**→ <http://aeee.jp/news/2016/06/000252.html>

## 強烈に印象に残った一言

ネパール支援家の垣見<sup>かきみかずまさ</sup>一雅氏は、講演の中で「The surest way to be happy is to make others happy(幸せになる最も確実な方法は人を幸せにすること)」と述べました。そのうえで「人が喜ぶことをすることで、自分が満たされていくという感覚がある。喜びは次から次へと連鎖できるものだ」と、支援のやりがいを語りました。この一言は我々にとって（少なくとも関ゼミ生全員にとって）一番印象に残りました。一見当たり前のことのようにも思えますが、長年遠いネパールの地で貧困に寄り添ってきた垣見さんから発せられたこと一言は我々に衝撃とも言える強烈な印象を残しました。関先生も、講演の最後に「他の人を幸せにできているかということ、私も含めて全員で考えていかなければならない」と締めくくり、垣見氏に刺激を受けた様子でした。



## 講演会を開催するにあたっての経緯と活動内容

蛇足になりますが、当講演会開催に至る経緯を少し記させていただきます。

実は、関先生からこの講演会を開催すると決まったことを知らされたのは開催日のわずか2週間前のことでした。我々関ゼミメンバーは突然の知らせに驚きましたが、開催は決まっているとのことなので、すぐに役割分担をして慌てて準備を開始しました。しかし、今年のゼミ生は全員が新人であり、このような大きなイベントを企画したことがありません。右も左も分からない状態からのスタートでした。

まず関先生から「集客をしなければならない」と伝えられました。そこで、Mero Sathi Projectメンバーの支援を

得ながらパンフレットを

急ぎよ作成し、昼休みに

チラシ配りを行い、毎日

SNS上でも拡散し、また

国分寺周辺の店舗にも協

力していただきチラシを



置いてもらいました。そのほかにも大学の広報課に依頼し、大学の公式ホームページでも

宣伝してもらいました。それでも、集客はなかなか思うようにはいかず、人集めがこんな

にも難しいものだということを初めて知りました。

次に、ゼミメンバーが講演会の進行方法を話し合っていると、関先生は「単純な講演会でなく、君たちなりの工夫を加えてほしい」と言いました。我々は関先生の発言の雰囲気からして、歌やダンスなど面白いことをしなければいけないと考えましたが、関先生は「しかし、主役は垣見一雅さんであり私達メンバーはわき役に徹するべきだ」と加えました。そこで、「脇役に徹しつつ垣見氏のご講演を引き立てること」を目標にすることとしました。その結果が、前述した照明調整、和太鼓、入場時の音楽演奏などでした。

開催までの二週間は大慌て。とても多くの時間が準備活動に割かれて大変でしたが、この活動を通じてメンバーの団結力が深まり、講演会も成功し大満足の結果となりました、

## この講演会の感想

垣見氏は自らのネパールでの取り組みを振り返り、「本当に小さなことを一つ一つ積み重ねてきただけ」とおっしゃっていましたが、これは私たちの生活すべてに言える大切なことではないかと思いました。何かを成し遂げようと思ったとき、いきなり目標に到達するということはほとんどあり得ません。当講演会の準備活動も同じです。ゼミ生13名、元ゼミ生、AAEE関係者の皆さん、そして関先生が力を合わせて少しずつ形になっていきました。我々は0から物事を作り出す難しさや楽しさを学び、また短期間で集中してイベントを完成させる体験をすることができました。何よりも、今回の経験を通じ、臨機応変に楽しく物事に対応する力が大切だと気づくことができました。垣見一雅さん、ご出席くださった皆様、AAEEアジア教育交流研究機構の皆さま、そして東京経済大学関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

最後に、今後の活動についての予告です。関ゼミ2016のテーマは**持続可能な開発**(SDGs)です。我々は国内の他大学やベトナム、ネパールの大学生とともに、SDGsについて共同で学びを深めていきます。夏には2週間ベトナムへ行き、現地の学生と共に持続可能な開発について調査します。またいつか報告しますので楽しみにしてください。



編集長 池田 滉志朗(東京経済大学経済学部2年)

## 来場者のコメント

講演会に来場して下さった方々から数多くのコメントを頂きました。その一部を掲載します。

---

- 国際協力は、自分にとって無縁と思っていたが、今回の講演を機に興味を持った。
- 誰かを幸せにしたいと思わせてくれた。
- ネパールでの生活の話を書き、当たり前なのに感謝しようと思った。
- 国際協力への信念を学ぶことができ、自分自身を振り返る機会となりました。
- 小さな幸せ、ありがたみ、思いやり、小さなことかもしれないが、常に心の中に思うことは大切だということを学びました。
- 支援に関する考え方も、これから生きていく中での考え方も、自分の人生の進み方に関しても、学ぶことがたくさんあった。何が大切か、豊かさとは何か、人と人の関わりとは何か、考えさせられた。
- 他人を幸せにすることが自分を幸せする確かな方法だということが心に響きました。
- 自分で考えて行動するだけでなく、相手方に合わせることも必要だと学びました。また、小さな幸せを大事にするという言葉がとても印象に残りました